

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072900303		
法人名	社会福祉法人 長生会		
事業所名	グループホーム美鈴ヶ丘		
所在地	福岡県小郡市三沢5430		
自己評価作成日	平成27年3月18日	評価結果市町村受理日	平成27年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=4072900303-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ
所在地	〒840-0015 佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号
訪問調査日	平成27年4月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同一敷地内にケアハウス、デイサービスが併設されています。
広大な敷地内には、季節を感じられる花や草木があり、自然に恵まれた環境にあります。ゆとりある広々とした室内は、プライバシーが守られ安心して生活できる居住空間が確保されています。
ホームで飼っている犬をはじめ、鯉や金魚が入居者の方を癒してくれています。職員一同、入居者の皆様が家庭的な雰囲気の中、穏やかに暮らしていける環境作りに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新興住宅地に隣接しながらも豊かな自然の残る一角に立地している二階建て2ユニットのホームです。広い敷地内には母体法人が運営するデイサービスとケアハウスが併設され、グラウンドゴルフ場や家庭菜園も備えられています。入口の門から奥まで続く美しい桜並木に菖蒲池・ひまわり・紅葉など、利用者はホームに居ながらにして四季の移り変わりを楽しむことが出来ます。

母体法人は古くから地域に根差して活動している社会福祉法人であり、敷地内にある施設以外にも地域のニーズに応じて様々な福祉サービス事業を展開されています。ホームでは、法人内の他施設等との協力体制が築かれており、緊急時や災害時のほか、専門性を生かした研修や利用者同士の交流なども行われています。

施設長をはじめ職員は、常に利用者の意思を尊重した「利用者本位」のサービスを心掛け、ホームでの生活を楽しく頂けるように努められています。その一環として、祭りへの参加やボランティア受入を含めた地域住民との交流支援、社会との繋がりを保つ意味での日常的な外出支援、色々な工夫を凝らした食を楽しむ支援、心の癒しとしてのペット飼育など、利用者の潤いのある生活の実現を目指されていることがうかがえます。申し送りノートの記入は個人別に行われ、日々の状況変化や、利用者の発した言葉、実施したケアの成功例・失敗例などがこと細かに記録に残されています。それらの記録により職員全員で情報の共有化に努め、きめ細やかな個別ケアの実現を目指されています。

自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1.人格尊重 2.礼節と尊敬 3.地域住民との交流 4.自己研鑽 以上の運営理念を管理者、職員は念頭に置いて業務を行っている。	ホームでは理念に基づき、利用者の意思を尊重したサービスを提供されています。ミーティングや申し送りなどの中で折にふれ理念の確認を行うだけでなく、サービスを振り返って考える機会も設けられています。新人教育を行う際には、法人の理念も含め方針をしっかりと認識するように努められています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域や他事業所で行われる催し物に招待を受けたり、事業所で行う行事には地域の方に来て頂き交流している。また、近隣の中学校の職場体験を受け入れ交流の場を作っている。	地域との付き合いを大切にされており、地区の祭りや敬老会などにも積極的に参加されています。また、ホーム主催の運動会や鈴々祭等の行事、避難訓練の際には、案内のチラシを近隣の住宅にポスティングするなど、周辺住民に参加を働きかけながら地域とのつながりを深められています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議などで地域の代表者に認知症介護の実践状況、支援方法をその都度報告している。見学者等には、必要に応じて、介護保険の説明や相談もお受けしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、入居代表者、地域代表者、行政代表者らにサービスの状況等の報告をし、それに対する意見・要望・質問等を受け、より良いサービスが提供できるように活かしている。外部評価についても評価内容や実践状況を報告している。	隣接する二つの地区の区長へ参加を呼びかけられています。参加者からは、様々な視点による意見が出されており、欠席者や関係者がいつでも閲覧できるように毎回会議録が作成されています。年に数回、利用者と同じ食事を食べていただく機会も設けられています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議の際や、必要に応じて電話連絡や市役所に伺い、その都度事業所の状況、サービスの取り組みなどを伝え、助言等を基にサービス援助に活かしている。	日頃からホームの状況報告を行ったり、市から研修等の情報提供を受けたりと、スムーズな運営やサービス提供を行うための協力関係が築かれています。困難事例がある場合は、速やかに市役所の担当部署や地域包括支援センターなどに相談され、アドバイスに基づく解決が図られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関に施錠せず自由に出入りできる環境を作っており、見守り付き添い声掛けの対応を行っている。定期的に職員ミーティングの中で勉強会を行い、全職員に周知徹底を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束を含む虐待関連の研修時間を多めに設け、繰り返し勉強することで理解が深まっています。転倒しやすい利用者や帰宅願望の強い利用者などについては、職員も特に気を配り、早めの言葉かけを行うようにされています。普段から家族への詳しい状況報告と対応についての話し合いも行われています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での勉強会を行い、虐待防止の徹底に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、活用できるように知識や理解を深めている。カウンターの見えやすい所にパンフレットを設置しており、家族懇談会の度に再度説明をしている。現在、成年後見制度を利用されている方が1名入居されている。	年に一度は、成年後見人制度など、利用者の権利擁護に関する職員研修が実施され、制度や事業の概要、必要性などについて学ばれています。 利用者家族に対しても成年後見制度を正しく理解して頂くため、定期的に説明会を行い、情報提供に努められています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書をもとに、ご本人及びご家族に十分な説明を行い、理解と納得を得た上で契約、解約、改定等の手続きを行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者にはその都度、生活の中で意見、要望を伺い解決につなげている。ご家族には面会時や家族懇談会の時に意見、要望を伺い、運営に反映している。	家族懇談会を年に二回開催され、新しい職員の紹介や意見交換が行われています。頂いた意見はすぐに職員で話し合い、要望に沿えるように努められています。利用者の要望については、日常生活の中での言葉に注意深く耳を傾けたり、表情の変化を読み取ったりしながら「何がしたいのか」を把握するように心がけられています。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の職員ミーティングにて管理者、職員が意見交換する場を設けている。	ミーティング等の他に職員の個別面談が年に数回行われ、その中で職員の意見や要望が聴取されています。個人的な相談にはユニットの責任者が随時応じられ、問題があれば速やかに対処されています。法人全体の取り組みとしては、ハラスメント対策等に力を入れています。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員と意見交換する場を適宜設けて、職場環境、条件の整備をその都度行っている。			
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や国籍、年齢にこだわらず、福祉に対する思いと個々の能力に目を向け、幅広い人材を採用している。採用後も能力が十分発揮できるようバックアップを行っている。	職員は、本人の意欲や姿勢を重視して採用されています。働きやすい環境整備にも取り組まれており、産前・産後休暇や育児休暇等の制度の運用、介護関連の資格取得のバックアップ研修など、色々な面において法人全体で支援されています。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	新人職員は、まず法人研修にて学んでもらっている。事業所内でも定期的に勉強会を実施し、全職員で人権に関する意識を共有し、人権尊重や啓発運動に取り組んでいる。	ホームの理念の中にも人格の尊重が謳われており、特に力を入れて取り組まれています。 研修では、実際にあった様々な事例を取り上げながら学ばれており、それぞれが意見を出し合うことで職員の人権に対する意識が高められています。		
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回ずつのフロアミーティングと、月例ミーティングにて、入居者の処遇などに関する勉強会を行っている。 法人内外の研修にも積極的に参加している。			
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の地域密着型サービスや施設との交流を行っており、処遇や事例などを検討している。外部施設の職員と連絡を取り合い、同業者との交流を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の気持ちを受け止め、思いを安心して表出できるように、初期の信頼関係作りに努めている。			
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテークの際、入居に至った経緯等を勘案し、不安な事、分からない事などあればその都度丁寧に対応し説明を行っている。			
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前に、本人、家族、関係者にアセスメントをとり、本人が必要としているサービスを見極めて提供している。			
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の力を発揮できる生活作りを支援させて頂くことで、喜怒哀楽を共にしながら暮らすことができている。			
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期受診や個別の外泊外出は、ご家族にお願いしている。 ご家族には気軽に行事にも参加して頂けるように呼びかけを行っており、家族同士の交流機会を大切にしている。			
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの行事や祭りなどに参加したり、馴染みの人の面会や馴染みの店に出掛ける等、今までの関係が途切れないように努めている。	利用者の友人や近所の人が面会に訪れやすいように、職員は笑顔で明るい雰囲気づくりを心掛けられています。 ドライブなどの野外行事の帰りには、少し遠回りして利用者の自宅や職場付近に立ち寄ることもあり、利用者は見慣れた懐かしい風景に喜ばれています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの性格を把握して、共に暮らしを楽しめるよう支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も必要に応じてフォローし、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、入居者と接する中で、一人ひとりの思いや希望、意向等を的確に把握できるように、表情や言動などを注意深く観察し、職員間で共有している。	日常生活は、本人のペースを最優先にされています。日中のレクリエーションも自由参加で、利用者は読書をしたりテレビを見たりと思い思いに過ごされています。高齢になるに従い生活のリズムが乱れ、睡眠時間や活動時間が日々変化する利用者の方にも毎日臨機応変に対応されています。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、ご家族、その他関係者から情報を得て把握に努めるとともに、入居後も日々の中での把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者それぞれ個別に生活記録を作成。又、職員間で申し送りを徹底し、現状把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、主治医や職員の意見を聞き、その人にとって必要な介護計画を作成している。また、「介護計画の実施と評価」を毎月ご家族へ送付している。	介護計画書は作成担当者により立案されたプランを基に、利用者や家族、職員、関係者からの意見を聞きながら作り上げられています。更新は基本的に半年ごとに行われますが、状況変化に応じて、随時の見直しも行われています。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に生活記録を記入し、重要な事は申し送りノートに記入して職員間で共有するようにしている。その情報をもとに介護計画の見直しや日々のケアに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者やご家族の急な要望にも出来る範囲で柔軟なサービス提供を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方たちに行事の時に来訪して頂き、会話、誘導、見守り等のお手伝いを通じて交流して頂いている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診先は、これまでのかかりつけ医の継続を支援しているが、定期的な訪問診療や夜間往診ができるクリニックを希望される場合は紹介を行っている。基本的には、ご家族による受診をお願いしているため、ご家族へ毎月の状態を書面で報告したり、電話や面会時にも報告している。又、必要に応じてかかりつけ医に直接報告し、適切な医療	以前からのかかりつけ医を継続して受診することもできます。家族の付き添いによる受診の際にも、必要な情報の把握と共有に努め、適切な健康管理に繋がられています。入居契約の際には、緊急時の対応についても家族との話し合いが行われています。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平成24年度より看護師を配置している。些細な変化等も看護師に相談し、助言、協力を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に入院先に訪問し、主治医、相談員、家族と連絡を取ると共に本人が不安にならぬよう面会して、早期に退院出来るよう努め、退院後安心して生活出来るように受け入れ体制を整えている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に向けた方針を説明し、同意書をもっている。入居後は、状況に応じて、家族や主治医等と話し合いを行い、本人の希望を最優先し、安らかな最期を迎えられるよう支援している。必要に応じて、他施設への紹介や入院支援も行っている。	ホームでは、本人・家族の希望により看取り介護を実施されており、実績も重ねられています。勉強会では、ターミナルケアにおける注意点や対処法、心構えなど、看護師のアドバイスを受けながら学ばれており、ケアに活かされています。また、不安の多いこの時期の家族の負担を軽減する為の精神的なサポートも行われています。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生に備えて、定期的に応急手当や初期対応などのマニュアルを準備しており、周知徹底を図っている。 必要に応じ、見直しも行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に昼間、夜間それぞれを想定した避難訓練を消防署立会いのもと近隣の方にも参加頂き実施している。また、訓練後には課題検討を行い、防災や災害時の対応について意識を高めている。敷地内のケアハウス入居者、職員との連携や通報システムの登録先として近隣住民の協力を得ている。	避難訓練では、出火元を色々な場所に設定することで、非常時にも慌てず速やかな対応ができるように工夫されています。市の避難場所や危険区域も把握されており、台風や地震を想定した話し合いも行われています。非常事態に備えた水や食料は、敷地内のケアハウスに確保されています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々、運営理念の一つでもある人格尊重を念頭に置いて支援しており、その人らしい時間の流れや居室作りを行っている。事業所内での勉強会を行うことで再確認し、初心を忘れないように心掛けている。	利用者の尊厳を大切にされており、言葉遣いや接遇マナーにも配慮されています。忙しい時間帯に、利用者に声をかけられた場合でも、きちんと向き合い対応するように努められています。利用者の入浴や排泄時には特に気を配り、必要最小限の支援と見守りを心がけられています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	目線を合わせて寄り添いながら、ゆっくりとした口調で声掛けを行う事で信頼関係の構築に努めている。 何げない言葉やしぐさを観察して、希望や願いを汲み取る事ができるように働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活習慣、希望を損なわないようにそれぞれのペースを尊重して支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれは、入居者本位で選別できるよう個別にて支援している。散髪は、月に1度移動理美容を利用して頂いている。 個別に美容室に行かれる際は、ご家族に付き添いの協力を得ている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の能力に応じて、調理手伝い、テーブル拭き、味見、盛りつけ、お盆拭き等をお願いし、自立支援につなげている。普段とは違った食事を楽しんで頂くために、バイキング形式にしたり、屋外にテーブルを出して食事したり、ご家族と一緒に外食に出掛けることもある。	餅つき大会や手作りのおせち、季節ごとの行事食、利用者も一緒に参加されるおやつ作りなど、食を楽しんで頂くために様々な工夫が凝らされています。夏場は家庭菜園で、トマトやナス、ピーマン、ゴーヤなどが栽培されており、利用者が収穫した新鮮な野菜が食卓を彩ることもあるようです。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が必要な栄養量を計算したメニューを基本に調理し、食事形態、量などは必要に応じて個別に医師、看護師、栄養士等に相談し、調整して提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者一人ひとりの状態に合わせて、毎食後口腔ケアの声掛けや見守り、一部介助を行っている。また、必要に応じて訪問歯科の無料検診を紹介したり、訪問歯科の定期往診にて口腔ケアや治療を受けて頂き、口腔ケアの指導も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄記録をとることで、排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮しながら声掛け誘導を行っている。立位困難な方に対してでもできる限りトイレ誘導を行い、不安感や羞恥心への配慮に努めて介助している。	共同トイレの他に、利用者一人ひとりの専用トイレが備えられており、利用者が時間や他者を気にすることなく落ち着いて排泄できる環境が整っています。行動パターンや表情、時間等でタイミングを図り、適切な誘導や援助による不快感の軽減や自立支援に繋がっています。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の有無を確認して記録している。便秘がちな方に関しては、ヨーグルトなどの乳製品を摂取して頂いている。かかりつけの病院から処方された下剤はその都度調整している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個浴を行い、希望や状況に柔軟に対応している。一人ひとりが、ゆっくりと入浴できるように配慮しながら、声掛けのタイミングなどをその都度工夫しながら行っている。	毎日入浴準備を行い、本人の希望により週に2～3回のペースで入浴が行われています。エアコンや滑り止めマットなどを備え、事故防止にも努められています。介護度の高い利用者には、シャワーキャリー(入浴用車いす)を用い、2人体制で介助を行うなど、安全に留意しながら入浴介助が行われています。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の過ごし方は、入居者本位を心掛けており、自然なリズムで安眠や休息がとれるよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を活用し、誤薬防止に努めている。服用する薬の副作用がある方については、主治医と家族に報告し、調整して頂いている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個々の能力に応じて、本人本意の役割を生活の中で見つけていくよう努め実践している。本人の性格、嗜好、生活歴も十分に考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	広大な敷地を有している為、敷地内の散策は自由に行えるようになっている。 外出については、定期的なドライブDAYで普段なら行く事ができない場所へお連れするように努めている。個別の外出については、一人ひとりの希望に忠実に応えることは出来ないが、ご家族に協力をいただき、外出支援を進めている。	利用者が近所のスーパーやドラッグストアに買い物に出掛ける「買い物DAY」など、外出支援の機会が多く設けられており、社会との繋がりが保てるように支援されています。近くのショッピングセンターのフードコートで、うどんやハンバーガーなど本人の好きなものを食べて頂く外食支援も行われています。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は、入居前にご家族と相談し、なるべく希望に沿う方法をとっている。入居者個々の状態に合わせてお金を使うことへの援助を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に応じ、電話や手紙のやり取り等は自由に行っていたり、必要に応じて介助している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆとりある広い共用空間内は、入居者が安心して過ごせるように清潔感と明るさに配慮し、手芸等の飾りつけにて季節感を感じていただけるようにしている。 入居者自身の書道やぬり絵などを掲示してなじみの空間作りに努めている。	広いリビングや日当たりの良いテラス、明るく大きな吹き抜けの階段など、全体的にゆとりのある造りの建物になっています。リビングには、利用者が集い、ゆっくりくつろいで頂くために十分な数のソファが置かれています。温度や湿度も適切に調整され、快適に過ごせるように配慮されています。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者間の関係を考慮して席順などを配慮している。必要に応じて、ソファや椅子を移動させたり向きを変える等に対応している。玄関外のベンチで日光浴等して過ごされることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の思い入れの強い家具、道具、家族写真等を持参して頂き、生活感あふれるプライバシー空間作りを支援している。	自宅で暮らしていた時のように過ごして頂きたいとの思いから、仏壇やこたつ、座椅子など使い慣れた家具や思い出のある写真、小物などを持ちこんでの居室づくりが行われています。 部屋は洋室と畳の和室があり、居室内または居室の近くに利用者ごとの専用トイレも備えられています。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	足元はすべてフラットという設計ではない為、段差がある所もあり、手摺りを設置している。手摺りの追加や位置の変更は必要に応じて対応している。浴槽はまたいで入るタイプをあえて設置している。 安全に入る為に手摺りやすべり止めマットを使用したり浴槽の両端はボードを被せている為、腰掛		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1.人格尊重 2.礼節と尊敬の念を持ち接する 3.地域住民との交流支援 4.自己研鑽 以上の運営理念を管理者、職員は念頭に置いて業務を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる催し物(夏祭りや敬老会)に招待を受けたり、事業所で行う行事(鈴々祭や運動会、餅つき等)に地域の方に来て頂き交流している。又、法人内事業所の行事にも積極的に参加し、その利用者の方との交流も図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議などで地域の代表者に認知症介護の実践状況、支援方法をその都度報告している。見学者等には、必要に応じて、介護保険の説明や相談もお受けしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、入居代表者、地域代表者、行政代表者らにサービスの状況等の報告をし、それに対する意見・要望・質問等を受け、より良いサービスが提供できるように活かしている。外部評価についても評価内容や実践状況を報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議の際や、必要に応じて電話連絡や市役所に伺い、その都度事業所の状況、サービスの取り組みなどを伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に職員ミーティングの中で勉強会を行い、全職員に周知徹底を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での勉強会を行い、虐待防止の徹底に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、活用できるように知識や理解を深めている。カウンターの見えやすい所にパンフレットを設置しており、家族懇談会の度に再度説明をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書をもとに、ご本人及びご家族に十分な説明を行い、理解と納得を得た上で契約、解約、改定等の手続きを行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者にはその都度、生活の中で意見、要望を伺っている。ご家族には面会時や家族懇談会の時に意見、要望を伺い、運営に反映している。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、管理者を含めた会議があり、そこで職員は管理者に意見や提案を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と職員が意見交換する場を適宜設けて、職場環境、条件の整備をその都度行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢に拘らずに、個々の能力に目をむけ幅広い人材を採用している。 採用後も能力が最大限に活かせるようバックアップを行っている。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	新人職員は、まず法人研修にて学んでもらっている。事業所内でも定期的に勉強会を実施し、職員への人権教育、啓発を行っている。		
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回ずつのフロアミーティングと、月例ミーティングにて、入居者の処遇などに関する勉強会を行っている。 法人内外の研修にも積極的に参加している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の地域密着型サービスや施設との交流を行っており、処遇や事例などを検討している。外部施設の職員と連絡を取り合い、同業者との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の気持ちを受け止め、思いを安心して表出できるように、初期の信頼関係作りに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテークの際、入居に至った経緯等を勘案し、不安な事、分からない事などあればその都度丁寧に対応し説明を行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前に、本人、家族、関係者にアセスメントをとり、本人が必要としているサービスを見極めて提供している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみやお菓子作り、サンドイッチ作りなどを一緒に行い、家族のように寄り添うケアを心がけている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期受診や個別の外泊外出は、ご家族にお願いしている。 ご家族には気軽に行事にも参加して頂けるように呼びかけを行っており、家族同士の交流機会を大切にしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	馴染みの行事や祭りなどに参加したり、馴染みの人の面会にて今までの関係が途切れないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクリエーションでの座る位置などに気を配り、孤立しないように気をつけている。また、利用者間の架け橋になるよう心がけている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者が退去される際は、新しい入居先へ情報提供を行い、新しい生活での変化を最小限に留める努力をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、入居者と接する中で、一人ひとりの思いや希望、意向等を的確に把握できるように、表情や言動などを注意深く観察し、職員間で共有している。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から、本人の生まれたときから現在までの生活を聞き取り、また、本人や家族と情報交換を密に行い把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態の変化や、また、職員が気付いた事は、個別記録や申し送りノートに記入し職員全員で情報を共有し把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、ミーティングで各入居者のケアについて話し合いを行い、見直しや変更をしている。また、「介護計画の実施と評価」を毎月ご家族へ送付している。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に生活記録を記入し、重要な事は申し送りノートに記入して職員間で情報を共有している。その情報をもとに介護計画の見直しや日々のケアに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者やご家族の急な要望にも出来る範囲で柔軟なサービス提供を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方たちに行事の時に来訪して頂き、会話、誘導、見守り等のお手伝いを通じて交流して頂いている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を一番にかかりつけ医を決めている。また、かかりつけ医との連携も密に行っている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の些細な変化でも看護師に相談・報告を行っている。また、看護師に医療面での意見を聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中もソーシャルワーカーに状態を聞いたり、見舞いの際に看護師やリハビリスタッフから話を聞き、本人と会って安心して頂けるように努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に向けた方針を説明している。入居後は、状況に応じて、家族や主治医等と話し合いを行い、方針を共有している。必要に応じて、他施設への紹介も行っている。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生に備えて、定期的に応急手当や初期対応などのマニュアルを整備しており、周知徹底を図っている。 必要に応じ、見直しも行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に昼間、夜間それぞれを想定した避難訓練を消防署立会いのもと近隣の方にも参加頂き実施している。また、訓練後には課題検討を行い、防災や災害時の対応について意識を高めている。敷地内のケアハウス入居者、職員との連携や通報システムの登録先として近隣住民の協力を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保についてはミーティングなどで話し合い、意見交換を行い気をつけている。また、入居者の尊厳と人格の尊重に配慮して、礼節を欠くことのない様に注意を払い対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方のペースを大切に、その方の表情や態度を見ながら、その方の意見や希望を汲み取るように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活習慣、希望を損なわないようにそれぞれのペースを尊重して支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれは、入居者本位で選別できるよう個別にて支援している。散髪は、月に1度移動理美容を利用して頂いている。 個別に美容室に行かれる際は、ご家族に付き添いの協力を得ている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事をし、巻き寿司作りやサンドイッチ作りなども一緒に行っている。また、BGMを流す等の雰囲気作りも行っている。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がカロリー計算をしたメニューで、それぞれに合わせた食事形態で提供し、食器などもその方が食べやすいものに変えて、自力摂取出来る様にしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの介助と、声掛けを行っている。また、歯科往診時に検診も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入して、その方の排泄パターンを掴み、その方の排泄ペースに合わせて介助している。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳・ヨーグルトなど飲んでいただきながら、軽い運動や腹部マッサージで排便を促している。それでも出ない時は下剤にて対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2～3日に1回のペースで定期的に入浴して頂き、本人の希望されたときはその都度ゆっくり入浴して頂いている。また、季節に合わせてゆずを入れるなど楽しみを持たせたり、入浴中のコミュニケーションも大切にしている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の身体状況に合わせて、昼寝の時間を作り、ゆっくりと休んで頂いている。また、夜間に不眠の訴えがある場合は、ゆっくりと話を聞き、安心して休んで頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指導の下、服薬支援においては間違いないよう二重にチェックし、服薬を支援している。また、症状に変化がある際は担当医に伝えている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お話しやカラオケや歌が得意な方には、誕生日に披露していただいたり、日々のコミュニケーションや生活歴の中からそれぞれに合った個別の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は現在出来ていないが、散歩や定期的なドライブDAYで普段なら行く事ができない場所へお連れするように努めている。個別の外出については、一人ひとりの希望に忠実に応えることは出来ないが、ご家族に協力をいただき、外出支援を進めている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は、入居前にご家族と相談し、なるべく希望に沿う方法をとっている。入居者個々の状態に合わせてお金を使うことへの援助を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室に電話を置いてる方については、自由に電話して頂いたり、取次ぎをしている。また、手紙についてもスムーズにやり取りが出来るようにフォローしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、テレビを囲みソファを配置し、自由にくつろげる空間作りを行っている。また、リビングや食堂には季節に合わせたディスプレイを行い、四季を感じて頂いている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファは、入居者の雰囲気やレクリエーションなどによって、その都度配置を自由に変えている。また、少人数で過ごせるスペースを設ける時もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのものを持って来られたり、家具などの配置も自由にして頂き、特に制限無く本人が使いやすいようにして頂いている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	足元はすべてフラットという設計ではない為、段差がある所もあり、手摺りを設置している。手摺りの追加や位置の変更は必要に応じて対応している。浴槽はまたいで入るタイプをあえて設置している。 安全に入る為に手摺りやすべり止めマットを使用したり浴槽の両端はボードを被せている為、腰掛		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		